

「2025年度学生生活アンケート」結果——学修に対する意思・行動について

■調査と分析方法■

学修態度に係る設問は6問あります（下図参照）。

各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去4年の値と比較しました。

2025年度は調査対象者数441名のうち回答が得られた306名（回答率69.39%）の結果を分析しました。

■分析■

学修態度に関する結果を学年別にみると（図10）, 多くの項目で3.00に近いポイントとなっており, 全体としては良好な学修態度で講義に臨んでいる様子が見えます。一方で, 授業に継続して出席すること（設問59）, 良い評価を取るよう努力すること（設問60）のように2~3年生にポイントがやや落ち込む項目や, 事前・事後学修（設問63）のように年次が上がるにつれてポイントを下げるとなる項目もあり, 良好な学修態度を維持する工夫も求められます。UNIPAの確認（設問64）はどの学年でも3.00を超えてはいるものの, さらなるポイント向上が課題です。

これを過去の結果と比較すると（図11）, 学修態度に係る設問59~設問63については, すべての項目で前回2024年度からポイントを下げるとなるか横ばいとなりました。とくに事前・事後学修に係る設問63の落ち込みが目立ちます。UNIPAの確認（設問64）は微増傾向にありますが, これもさらなるポイント向上が課題です。

キャンパス別では（図12）, 傾向に大きな違いは見受けられませんが, 全体的には目白キャンパスのポイントの方が高くなっています。

図 10 学修態度（学年別、回答者全体）

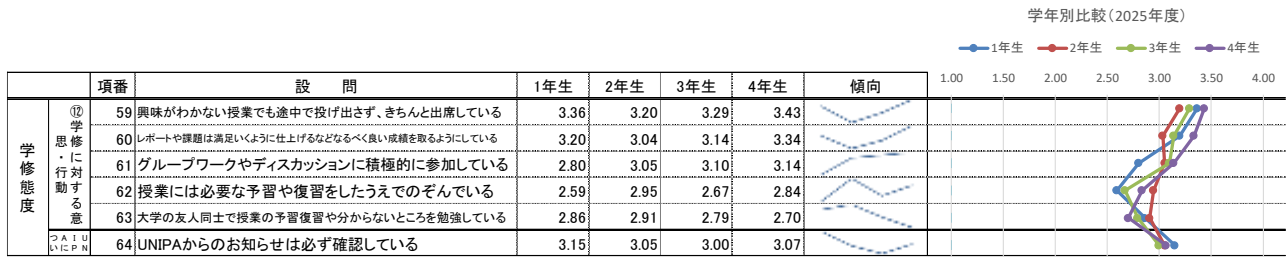


図 11 学修態度（2022～2025 年度、回答者全体）

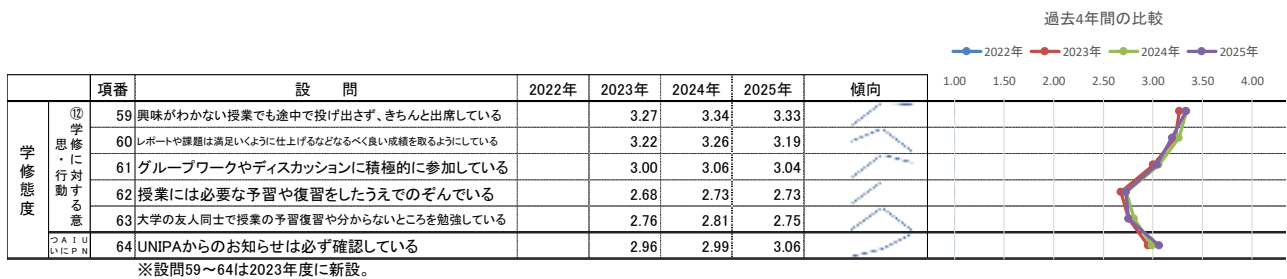


図 12 学修態度（キャンパス別、回答者全体）

